

## 調査報告書

- 1 とき：2012年8月9日
- 2 行先：ピース大阪・大阪港
- 3 参加者：わしの恵子、山口清明、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容

### ピース大阪(大阪国際平和センター)

- ・ 倉田館長に現在の活動と平和行政について懇談後、館内説明をして頂きました。
- ・ 館長は「橋下市長の行政改革で、2億円の運営費が8000万に、10人の職員が0人になり、OB・契約社員・アルバイトだけになった。



- ・ 講堂でのイベントは補助金が出ないので講師にはボランティアで来てもらい、意地で回数増やしているが、せめて講師の交通費くらいは出したいと思う。来場者の6~7割が子ども。維新の会は『むごい死体の写真を子どもに見せるべきではない』と府議会で、市府共に『閉館すべき』と議会発言し、反対者は飛ばされてしまう。また、15年位前から展示物1つ1つチェックし攻撃されているが、大切なことは伝えて行きたい」と言われました。
- ・ この日も多くの子どもたちが真剣に展示物を見ていました。
- ・ 戦争の教訓を風化させないために、平和博物館は大切な役割があり、守るべきだと思います。



### 大阪港埠頭(株)・大阪市港湾局・DICT

- ・ 国際戦略港として大阪港埠頭(株)が2011年4月に設立された。
- ・ 国際コンテナ戦略港の阪神港について、計画・目標・課題などの話を聞き今後の大阪港の目指すべき姿がどのようなものか説明を受けた。
- ・ その後、夢洲のDICTへ行き、管理棟屋上からターミナルを視察し、夢洲コンテナターミナル(株)の後藤特別顧問より概要説明を受けた。
- ・ 港湾局の職員が「民営化のメリットは、民間の社長を入れると市長の考

えが通らないことだ。役所はしがらみが多いが純粹に利用者のために動くことが出来る。民の視点から港湾経営を実現していく」と説明した。

- 釜山港に対峙できる港湾サービスを確保し、基幹航路の拡大に向けた取扱い貨物量を確保し、東南アジアの国際ハブポートとしての機能を目指すとのことだが、簡単なことではないことだけ分かった。